

【MBC ラジオ Radio Burn 夏休みの宿題スペシャル 特別レポート】

# 鹿児島温泉戦国時代 勢力分布調査報告書

【第1回 平成27年8月22日調査】

1. 調査の背景
2. 調査方法
3. 調査結果
4. 勢力分布状況の数値化
5. 温泉ソムリエによる調査所感
6. 資料編
  - ・ 調査票
  - ・ 道路使用許可取得について



---

作成：鹿児島温泉戦国時代 運営班 (MBC ラジオ Radio Burn 夏休みスペシャル)

協力：MBC ラジオ Radio Burn

天文館にぎわい通り にぎわい通り大学

鹿児島温泉観光課 六三四城 With 鹿児島温泉ソムリエチーム

一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab

本件執筆担当：永山由高 (Ten-Lab 理事長 ※温泉ソムリエ)

本件監修担当：六三四 (鹿児島温泉観光課 六三四城 代表 ※三ツ星温泉ソムリエ)

本件に関するお問い合わせ：

電話：090-3418-2035 (永山) メール：info@ten-lab.org (Ten-Lab 事務局)

## 1. 調査の背景

鹿児島県は県内に 950 年の泉源を持つ温泉大国である。なかでも霧島、指宿の 2 大温泉地は全国にもその名を知られた一大観光地であり、年間通して多くの観光客が訪れている（霧島は延べ宿泊者数 1,193,418/年、延べ日帰り客数 2,437,835/年、指宿は延べ宿泊者数 779,733/年、延べ日帰り客数 1,403,915/年が訪れる。）一方で、上記 2 大拠点以外にも、鹿児島には多くの温泉地があり、それらは地域の特性に応じた振興策を模索しつつ、指宿・霧島に次ぐ第 3 の温泉地を目指して様々な取り組みを実施している。（数値はいずれも平成 25 年のもの。）

今回の調査は、下記 8 つの「第 3 の温泉地候補」の知名度調査を通じて、第 3 の温泉地を巡る争い「鹿児島温泉戦国時代」の現状を把握するとともに、調査を通じて各温泉地の今後の振興策の参考情報の取得を目的として実施した。

### 【鹿児島温泉戦国時代 8 温泉地】

日当山温泉：霧島市の南西、国道 223 号沿いに位置。家族湯の多さと多様性が特徴。温泉旅館も多く、デザイン性の高い宿も数件立地している。

宮之城温泉：さつま町の中央部に位置。町内に大衆浴場が点在。宮之城温泉（旧湯田温泉）には旅館群。かつては湯治場として栄えたが、近年は空き店舗が目立つ。

紫尾温泉：さつま町の北部に位置する山間の温泉郷。県内屈指の単純硫黄泉はトリプル美人の湯として名高い。複数の温泉旅館が軒を並べる温泉郷。

川内高城温泉：薩摩川内市の県道 339 号線沿いに位置。西郷隆盛ゆかりの温泉としてファンの間では有名。150m の古い温泉街がレトロな雰囲気を持つ。

入来温泉：薩摩川内市の国道 328 線沿いに位置。かつては温泉街が賑わったが、現在は再開発と区画整理で温泉街の面影はない。

市比野温泉：薩摩川内市の県道 32 号線沿いに位置。薩摩の奥座敷と呼ばれる古くから温泉街であり、湯治場・歓楽街として年配者には馴染みあり。

湯之元温泉：日置市東市来町の国道 3 号線沿いに位置。15 の泉源をもち、大衆浴場、家族風呂、旅館が点在。古い路地が残る温泉街だが、近年は通りに空き店舗が目立つ

海潟温泉：垂水市の国道 220 線沿いに位置。かつては大型温泉旅館と海水浴場で盛り上がるも近年は観光客激減。海沿いでありながら単純硫黄泉、トリプル美人の湯。

## 2. 調査方法

今回の調査は、上記鹿児島市外の 8 温泉地に対する知名度の把握を目的としていることから、鹿児島市での開催とした。調査場所は鹿児島市最大の繁華街 天文館を選び、中でも主要通りの1つである「にぎわい通り」での聞き取りアンケート調査を実施した。

### 【調査方法】

調査日時：平成 27 年 8 月 22 日（土）13:00～16:00

調査対象：天文館にぎわい通りを歩行中の鹿児島市民 100 名

調査員：鹿児島県内の温泉ソムリエ 5 名

（三ツ星ソムリエ 1 名、一つ星ソムリエ 3 名、無星ソムリエ 2 名）

調査方法：聞き取りアンケート調査

（通行人に調査員がヒアリングしながらアンケート調査票を埋める）

調査票：下記

MBCラジオ Radio Burn 夏休み特別企画！ 一般社団法人鹿児島天文館総合研究所Ten-Lab × 鹿児島 温泉ソムリエ				【記入版】
鹿児島温泉戦国時代 第1回 認知度・イメージ調査				
	(あてはまるものに○印を！) 行ったことのある温泉地	年間で3回以上 行く温泉地	友人にお勧めしたい 温泉地順位 (1位～8位まで)	温泉地としてのイメージ (自由コメント)
川内高城温泉				
宮之城温泉				
紫尾温泉				
市比野温泉				
入来温泉				
湯之元温泉				
日当山温泉				
海海温泉				

あなたについて教えてください  
性別：男性 / 女性      年代：10代 / 20代 / 30代 / 40代 / 50代 / 60代以上  
住んでいる場所（市町村までで結構です）：



調査場所：下記

### アンケート調査実施地域



### 3. 調査結果

調査の結果は、下記の通りとなった。

#### ① 調査対象者属性

<性別>男性： 41名／女性： 59名

<年代>10代：4名 20代：22名 30代：17名 40代：20名 50代：9名

60代以上：19名 不明：9名

<居住地>鹿児島市：68名

鹿児島市外：32名（日置市、姶良市、伊佐市、川内市、出水市、垂水市、阿久根市、南さつま市、さつま町、福岡市、北九州市、佐賀市、京都市、大津市、千葉市、不明）

#### ② 温泉利用度調査

<8温泉地のうち、3か所以上を利用した経験のある割合>

全体：44%(44人)

(年代別)

10代：2.3% (1人)      20代：4.5% (2人)

30代：13.6% (6人)      40代：31.8% (14人)

50代：15.9% (7人)      60代以上：22.7% (10人)

不明：9.1% (4人)

<8温泉地のうち、5か所以上を利用した経験のある割合>

全体：16% (16人)

(年代別)

10代：－      20代：－

30代：－      40代：25.0% (4人)

50代：18.8% (3人)      60代以上：37.5% (6人)

不明：18.8% (3人)

#### 【上記から見られる考察】

3か所以上の温泉地を利用した経験者の割合が全体で44%、5か所以上の経験者が16%と、一定の割合で温泉地を巡る層（温泉地ファン）が存在することが明らかになった。鹿児島市60万人のマーケットで考えても、16%に当たる96,000人（約10万人）の見込み顧客を抱えた市場であることがわかる。年代別の統計では、やはり5か所以上の経験者は40代以上に多いことから、温泉地巡りを始める年代は概ね40歳前後であることが推測される。

### ③ 温泉地別利用度調査

「行ったことがある…1点」「年間3回以上行く…3点」とし、各温泉地の利用頻度を点数化した結果、各温泉地の数値結果は下記の通りとなった。

- 1位：日当山温泉（92ポイント）
- 2位：湯之元温泉（66ポイント）
- 3位：市比野温泉（56ポイント）
- 4位：宮之城温泉（48ポイント）
- 5位：紫尾温泉（42ポイント）
- 6位：入来温泉（32ポイント）
- 7位：川内高城温泉（26ポイント）
- 8位：海瀉温泉（18ポイント）

#### 【各温泉地の利用度調査から見られる考察】

##### 1) 鹿児島市からの近接性

日当山温泉、湯之元温泉の上位2か所はいずれも鹿児島市内から40分以内でアクセス可能という近接性が大きく作用している。これは、自由記入のコメント欄にて「近いからよく行く」「近さが魅力」などの回答でも確認できた。都市部との近接性は、温泉地競争のなかで大きな優位性であることが確認できる。この点から見るに、市比野温泉よりも鹿児島市に近い入来温泉は、アクセスの良さを訴求することで利用度を高められる可能性がある。温泉ソムリエとしての感覚から、商圈は日常湯が車で30分以内、家族湯は2時間という認識がある。鹿児島のばあい、2時間あればほぼ全ての温泉地を訪問可能であることから、地方温泉も今後の活動如何によって集客力向上の可能性はあろう。

##### 2) 経由地としての利便

上記に関連して、鹿児島空港および霧島地域への観光のついでに立ち寄る日当山温泉と、国道3号線沿いに位置する湯之元温泉は、目的地としての温泉ではなく、経由地としての温泉の強みを十分に発揮していると言える。

この点、目的地になりやすい紫尾温泉、宮之城温泉は不利といえるが、一方で入来温泉、川内高城温泉、海瀉温泉などは、経由地としての戦略を取ることで今後の利用増につながる余地があると言えよう。

##### 3) 家族湯の充実

日当山温泉、湯之元温泉ともに、「家族湯を利用する」声が多かったのも自由筆記欄から見られた特徴である。特に日当山温泉は「小さい子供からご年配の方まで楽しめる多様な家族湯が魅力」とのコメントにあるように、家族湯のバラエティの豊かさが評価されている。湯之元温泉が比較的リーズナブルな家族湯メインであるのに対し、高価格帯の家族湯も含めたバランスの良さが、日当山を1位に押し上げた要因といえる。

#### ④ 温泉地お勧め度ランキング調査

8 温泉地をお勧め度別にランキング付けしてもらい、「1 位…8 点」「2 位…7 点」～「8 位…1 点」とし、各温泉地のお勧め度を点数化した結果、各温泉地の数値結果は下記の通りとなった。

- 1 位：日当山温泉（313 ポイント）
- 2 位：湯之元温泉（226 ポイント）
- 3 位：市比野温泉（209 ポイント）
- 4 位：紫尾温泉（179 ポイント）
- 5 位：宮之城温泉（140 ポイント）
- 6 位：川内高城温泉（118 ポイント）
- 7 位：入来温泉（90 ポイント）
- 8 位：海瀉温泉（49 ポイント）

#### 【各温泉地のお勧め度ランキング調査から見られる考察】

##### 1) メディア露出による「行ってみたい温泉」ブランド化

1 位の日当山温泉、2 位の湯之元温泉については、自由筆記欄にて「テレビで見た」等のメディア露出がきっかけとなり、ブランドイメージを構築している例が散見された。

##### 2) 利用度調査との差異から見られる各温泉地の特性

上位 3 か所（日当山・湯之元・市比野）は利用度調査と変わらずの結果となったが、4 位・5 位と、6 位・7 位に変動が見られた。

（宮之城温泉／紫尾温泉について）

利用度では宮之城温泉の方が高いのに対し、お勧め度では紫尾温泉が大きくリードした。自由筆記から見られる傾向としては、紫尾温泉の泉質の高さに対する評価が大きく寄与している。

（入来温泉／川内高城温泉について）

川内高城温泉については、「秘湯のイメージ」「未開の地」といった、珍しさやレトロな街並みのイメージが少しずつ広がっていることがうかがえる調査結果となった。

##### 3) 名前を覚えてもらう努力

特にランキング下位の温泉地においては、名前の読み方がわからないという方が一定数見られた。高城温泉を「たかしろおんせん？」海瀉温泉を「うみがたおんせん？」など、まだまだ地名としての認知が得られていない温泉地も少なくない。

#### 4. 勢力分布状況の数値化

温泉地利用度調査およびお勧め度ランキングから、現時点での鹿児島市における勢力分布図を下記の数値で表現した。

暫定順位	温泉地	お勧め度	利用度	合計得点
【参考】	霧島温泉	700	100	800
	指宿温泉	700	100	800
1	日当山温泉	313	92	405
2	湯之元温泉	226	66	292
3	市比野温泉	209	56	265
4	紫尾温泉	179	42	221
5	宮之城温泉	140	48	188
6	川内高城温泉	118	26	144
7	入来温泉	90	32	122
8	海瀉温泉	49	18	67

※参考としての指宿・霧島両温泉地の数値産出方法は下記の通り

お勧め度…100名の調査対象者のお勧め度ランキングにて全員が上位3地区(8~6点)に位置づけた場合、お勧め度ランキング評点はいずれも700前後となる。

利用度…100名の調査対象者のうち8割が1度は行ったことがあり、1割が「良く利用する」と答えた場合、利用度評点100点前後となる。

#### 【勢力分布状況を踏まえた考察】

当調査の目的が「第3の温泉地を巡る争い」の状況を把握するというものである以上、最終目的はあくまでも霧島・指宿レベルの知名度・利用度であることを考えると、現在その位置に最も近いと考えられる日当山温泉でも、ポイントにして400近い開きがある。かかる状況においては、現在のところは確定的な最有力候補を挙げるには至らない状況といえよう。

また、現時点では鹿児島市との距離感を軸に知名度・利用度が並んでいるが、霧島・指宿ともに鹿児島市から1時間以上かかるという特性を考えると、現在下位に並ぶ紫尾、宮之城、川内高城、入来、海瀉にも、戦略次第では十分に逆転の可能性があるということも言える。

今回の第1回調査を受けて、各温泉地がそれぞれの特性を生かした振興策に着手することを期待したい。

## 5. 温泉ソムリエによる調査所感

温泉ソムリエマスター T氏

⇒意外と温泉地を知らない人が多いのが驚きであった。年配の方でも、3割近い方が温泉に普段いかないとの声がある一方で、若い女性による「友達と一緒に家族湯に行く」という声もあり、実際に街の声を聴くことでリアルな温泉観を知ることができたのは収穫。結果については、やはり家族湯の多い日当山温泉が強いなあ、という印象。

温泉ソムリエマスター MN氏

⇒今回は地方 8 温泉地に関するインタビューであったが、話を聞く中で鹿児島市内の温泉には良くいくという方も多かった。鹿児島市内にもよい温泉がたくさんあるというのもよくわかる調査であった。結果については、湯之元温泉に対する注目を感じた。特につれづれの湯のファンや、注目の高まりを感じた。

温泉ソムリエマスター MY氏

⇒調査の中で、鹿児島市内の温泉に入る人の多さから、鹿児島市内の温泉で満足し、あえて地方温泉地までは足を延ばさない人が多いという様子を感じた。そんな中で、実家の近くや、良く通る温泉地（アクセスや近接性）はポイントを取りやすい。また、美人の湯の概念も少しずつ浸透しており、とくに紫尾温泉は美人の湯としてのイメージが強いように感じた。

三ツ星温泉ソムリエ（マスター・インストラクター・アンバサダー） 六三四氏

⇒日当山は順当に 1 位のポジションを獲得、やはり家族湯の多様さと近接性が最大の魅力だろう。意外なのは 2 位の湯之元、家族湯の存在と、年代ごとの支持（高齢者：熱い大衆浴場、若者：おしゃれなつれづれの湯）を手堅く集めたかたち。3 位の市比野も意外な順位、手近なイメージと、近接性が評価されたようだ。

⇒紫尾、宮之城はもっと上位にきてもおかしくない力を持っている。特に紫尾温泉の泉質の良さが、まだまだ一部の人にしか伝わっていないのがもったいない。宮之城は、手塚旅館のイメージが先行してこの順位。まだまだ上げられるはず。

⇒入来は、有力温泉地に挟まれて若干苦戦している状況。麓の盛り上がりをうまく温泉地活性につなげ、魅力を発信していきたい。

⇒高城は、まだまだ知名度がないことを自覚したうえで、「秘境」のイメージをうまくブランドにつなげる動きが必要か。

⇒海潟にとっては、鹿児島市内での調査という面が若干不利か。鹿屋で調査すればまた違った結果になったかもしれない。PR 面での奮起にきたいしたい。



## 6. 資料編

### ① 道路使用許可取得について

本件調査は、コンプライアンスの観点から、天文館にぎわい通り会および鹿児島県警の鹿児島中央警察署に事前申請を行い、適正な手続きを経て実施した。

特に道路使用については、許可発行に中 2 日を要することから、第 2 回以降の調査にあたっては、事前の申請事務を欠かさぬよう注意したい。

#### 【鹿児島県警察 中央警察署での道路使用許可取得業務】



#### 【道路使用許可申請手続きの方法】

1. ホームページにて申請書ダウンロード（様式 4）
2. 申請書記入の上、警察署窓口にて様式確認
3. 隣接する交通安全協会にて証紙購入（2,400 円）
4. 警察署窓口にて申請書提出
5. （申請書提出より 2 日後）警察署にて許可証取得

### ② 天文館地区でのアンケート調査風景

本件調査では、鹿児島県内 5 名の温泉ソムリエが街頭に立って実施した。

この場を借りて、協力いただいた温泉ソムリエ各位に謝意を表したい。

（調査中の様子）

